

## 令和5年播種（令和6年産）麦類作況試験生育状況（古川農試）〔4月10日調査結果〕

### 1 気象概況〔3月下旬～4月上旬〕(図1)

- 平均気温は、3月第6半旬～4月第2半旬まで平年より高く推移した。
- 降水量は、3月第6半旬と4月第2半旬が平年より多く、3月第5半旬と4月第1半旬は平年より少なかった。
- 日照時間は、3月第6半旬～4月第1半旬は平年より長かった。

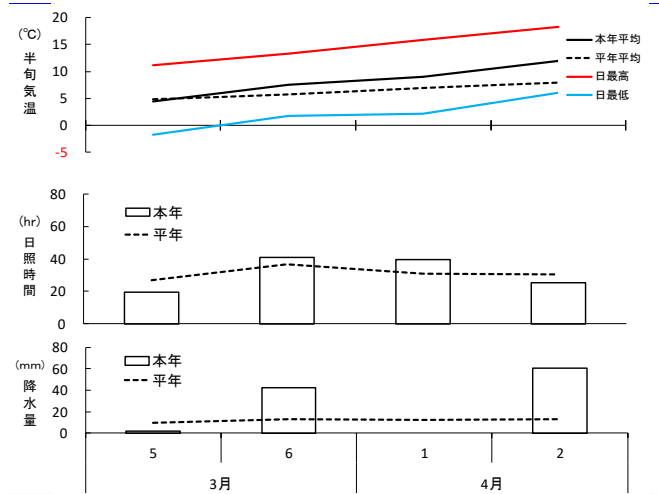


図1 気象経過 古川アメダス

### 2 生育概況

#### 1) 4月10日現在の生育状況（表1）

##### 10月中旬播種区

- 草丈は、大麦が平年よりやや長い～長く（平年比シュンライ 109%、ミノリムギ 118%、以下同じ）、小麦も平年よりやや長い～長かった（平年比シラネコムギ 114%、夏黄金 122%、以下同じ）。

- 茎数は、大麦が平年より少なく（平年比 80%、72%）、小麦も平年より少なかった（平年比 74%）。
- 葉数は、大麦が平年より多く（平年差+2.0葉、+1.6葉）、小麦も平年より多かった（平年差+1.5葉、+1.4葉）。

##### 10月下旬播種区

- 草丈は、大麦が平年よりやや長い～長く（平年比 112%、128%）、小麦も平年より長かった（平年比 123%、120%）。
- 茎数は、大麦が平年並～平年より少なく（平年比 83%、98%）、小麦「シラネコムギ」が平年よりやや少なく（平年比 93%）、小麦「夏黄金」は平年よりやや多かった（平年比 114%）。
- 葉数は、大麦が平年より多く（平年差+2.1葉、+1.5葉）、小麦も平年より多かった（平年差+1.2葉、+1.4葉）。

#### 2) 幼穂長、幼穂分化程度及び出穂期・開花期予測（表2、3）

##### 10月中旬播種区

- 大麦の幼穂長は、平年より長く（平年差シュンライ+36.1mm、ミノリムギ+17.4 mm）、生育ステージは平年より早く経過しており、減数分裂期は「シュンライ」が4月4日、「ミノリムギ」が4月10日に迎えた。出穂期は「シュンライ」が4月15日、「ミノリムギ」が4月20日、開花期は「シュンライ」が4月25日、「ミノリムギ」が4月28日と予測される。
- 小麦の幼穂長は、平年より長く（平年差シラネコムギ+5.3mm、夏黄金+6.5mm）、生育ステージは平年よりも早く経過している。出穂期は「シラネコムギ」が5月1日、「夏黄金」が4月29日、開花期は「シラネコムギ」が5月13日、「夏黄金」が5月11日と予測される。

##### 10月下旬播種区

- 大麦の幼穂長は、平年より長く（平年差シュンライ+23.2mm、ミノリムギ+17.6 mm）、生育ステージは平年よりも早く経過している。出穂期は「シュンライ」が4月19日、「ミノリムギ」が4月22日、開花期は「シュンライ」が4月27日、「ミノリムギ」が4月30日と予測される。
- 小麦の幼穂長は、平年より長く（平年差シラネコムギ+3.2 mm、夏黄金+3.8mm）、生育ステージは平年よりも早く経過している。出穂期は「シラネコムギ」が5月3日、「夏黄金」が5月1日、開花期は「シラネコムギ」が5月14日、「夏黄金」が5月13日と予測される。

### 3 栽培管理の状況

- ・幼穂形成期追肥を小麦の10月下旬播種区で3月25日に実施した。
- ・減数分裂期追肥を大麦で4月12日に実施した。

表1 生育状況

品種	区別	草丈(cm)			茎数(本/m <sup>2</sup> )			葉数(枚)			
		本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差	平年差	
大麦	シュンライ	中旬播種区	33.1	76	109	577	79	80	11.8	+0.6	+2.0
		下旬播種区	30.1	81	112	627	92	83	10.8	+0.4	+2.1
	ミノリムギ	中旬播種区	34.8	76	118	611	75	72	11.6	±0	+1.6
		下旬播種区	32.8	90	128	761	102	98	10.4	+0.1	+1.5
小麦	シラネコムギ	中旬播種区	32.2	92	114	543	74	74	10.6	+0.2	+1.5
		下旬播種区	31.8	84	123	801	105	93	9.5	-0.3	+1.2
	夏黄金	中旬播種区	31.5	90	122	589	79	74	10.5	+0.7	+1.4
		下旬播種区	28.1	84	120	934	122	114	9.4	+0.3	+1.4

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

注2) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

表2 幼穂長及び幼穂分化程度

品種	区別	幼穂長(mm)			幼穂分化程度	茎立期			減数分裂期			
		本年	前年差	平年差		本年(月日)	前年(月日)	平年(月日)	本年(月日)	前年(月日)	平年(月日)	
大麦	シュンライ	中旬播種区	51.6	+16.2	+36.1	X	3/21	3/20	3/28	4/4	4/5	4/15
		下旬播種区	33.4	+10.7	+23.2	X	3/28	3/23	4/3	4/8	4/13	4/18
	ミノリムギ	中旬播種区	29.6	+0.6	+17.4	X	3/24	3/21	3/29	4/10	4/11	4/19
		下旬播種区	25.6	+8.2	+17.6	X	3/29	3/24	4/4	-	4/16	4/21
小麦	シラネコムギ	中旬播種区	9.9	-3.5	+5.3	X	4/2	3/23	4/4	-	4/18	4/26
		下旬播種区	7.8	-2.3	+3.2	X	4/3	3/26	4/7	-	4/21	4/27
	夏黄金	中旬播種区	12.2	-2.4	+6.5	X	4/3	3/26	4/5	-	4/18	4/26
		下旬播種区	8.7	-1.2	+3.8	X	4/3	3/30	4/9	-	4/21	4/27

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

注2) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注4) 茎立期: 主穂長が20mmに達した日。

注5) 減数分裂期: 幼穂長が30mmに達した日。

【参考】麦類の幼穂分化程度と幼穂長(mm)

品種	苞分化期	小穂分化期				穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X	
大麦(シュンライ等)	0.5	0.5~0.7	0.7~1.5	1.5~2.0	2.0~4.0	4.0~5.0	
小麦(シラネコムギ等)	0.5	0.5~0.6	0.6~1.0	1.0~1.2	1.2~4.0	4.0~5.0	

注1) 幼穂分化程度はI~Xの10期に分類されるが、V期以前は外部形態による判定が困難であるため省略した。

注2) 厳密にはVII期は前期と後期に、IX期は前期、中期、後期に区分される。

表3 減数分裂期、出穂期及び開花期の本年予測値

品種名	区分	減数分裂期			出穂期			開花期		
		予測値 (月日)	前年値 (月日)	平年値 (月日)	予測値 (月日)	前年値 (月日)	平年値 (月日)	予測値 (月日)	前年値 (月日)	平年値 (月日)
大	シュンライ 中甸播種区	4/4	4/5	4/15	4/15	4/18	4/25	4/25	4/25	5/2
	下甸播種区	4/8	4/13	4/18	4/19	4/22	4/29	4/27	4/30	5/7
麦	ミノリムギ 中甸播種区	4/10	4/11	4/19	4/20	4/22	4/29	4/28	4/27	5/5
	下甸播種区	4/12	4/16	4/21	4/22	4/26	5/3	4/30	5/2	5/9
小	シラネコムギ 中甸播種区	4/21	4/18	4/26	5/1	4/27	5/5	5/13	5/9	5/14
	下甸播種区	4/23	4/21	4/27	5/3	4/30	5/7	5/14	5/12	5/17
麦	夏黄金 中甸播種区	4/20	4/18	4/26	4/29	4/27	5/6	5/11	5/9	5/14
	下甸播種区	4/22	4/21	4/27	5/1	4/30	5/7	5/13	5/11	5/16

注1) 中甸播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

注2) 下甸播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注3) 減数分裂期: 幼穂長が30mmに達した日。

注4) 出穂期: 全茎の40~50%が出穂した日。

注5) 開花期: 全穂数の40~50%が開花した日。

注6) 予測値は予測シート ver4.0を用いた値。

注7) 大麦の中甸播種区と大麦「シュンライ」の中甸播種区の減数分裂期は実測値。

参考: [麦類の生育ステージ予測シート Ver.4.0\(追補\)](#)

令和5年播種（令和6年産）麦類生育調査ほ生育状況〔4月10日調査結果〕

表1 麦類生育調査ほ 生育状況

	品種	実施場所	草丈(cm)			茎数(本/m <sup>2</sup> )			幼穂長(mm)		
			本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差	平年差
大河原	シュンライ	大河原町金ヶ瀬	35.6	73	144	797	115	104	10.1	-7.5	-0.5
	ホワイトファイバー	大河原町金ヶ瀬	27.1	66	—	598	131	—	10.9	-4.9	—
仙台	シュンライ	仙台市宮城野区	51.5	86	—	559	126	—	37.8	-7.8	—
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	36.8	97	166	1264	135	126	6.4	-5.3	+4.0
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	35.8	119	154	875	110	94	4.4	-0.8	+1.8
	夏黄金	涌谷町猪岡	24.6	89	—	574	73	—	6.0	+2.0	—
登米	あおばの恋	登米市豊里町	40.3	90	138	820	108	108	7.8	-7.5	+2.3
	シュンライ	石巻市桃生町	54.5	91	170	725	103	97	35.1	-1.3	+22.6
石巻	ミノリムギ	石巻市桃生町	35.7	70	126	706	73	106	14.2	-8.0	+9.3
	シラネコムギ	石巻市桃生町	31.2	—	—	779	—	—	3.2	—	—

注1) 平年値は、過去7か年中の値から、最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 大河原町「ホワイトファイバー」は、令和元年播種から調査のため、平年値(比・差)はない。

注3) 仙台市「シュンライ」は、令和4年播種から調査のため、平年値・前年値(比・差)はない。

注4) 美里「夏黄金」は、令和元年度播種から調査のため、平年値(比・差)はない。

注5) 石巻「シラネコムギ」は、令和5年度播種から調査地変更のため、平年値(比・差)はない。

注6) 幼穂長の「-」は未調査であることを示す。観察の結果、幼穂を確認できなかった場合は「0」と示す。

<生育調査ほの状況等>

大河原 「シュンライ」、「ホワイトファイバー」

- ・2月下旬以降、3月いっぱい周期的に寒暖を繰り返し、4月以降はやや高温傾向であった。また、周期的な降雨もあった。
- ・2月下旬以降順調に生育しており、諸障害も見られない。出穂期は平年並みの4/29頃と予想される。
- ・減数分裂期間近になり生育量が増大する時期になったが、葉色は維持されている。

仙台 「シュンライ」

- ・平均気温は、3月上旬は平年より低く、3月中下旬は平年より高く推移した。降水量は3月を通して平年より概ね多く推移した。
- ・幼穂長は約38mmで、減数分裂期を迎えている(4/10現在)。

大崎 「シラネコムギ」

- ・気温については3月第4・5半旬が平年並み、それ以降4月第1半旬までは平年より高温で推移。日照時間は3月第4・6半旬4月第1半旬にかけて多照、3月第6半旬にまとまった降雨と4cmの降雪があった。
- ・生育量は、草丈が36.8cmで、茎数が1264本/m<sup>2</sup>となっている(4/10現在)。
- ・幼穂長は6.4mmであり、減数分裂期は4/25頃と推定される。
- ・一部筋状にスズメノテッポウが密生している部分あり。草丈は20cm程度。

美里 「シラネコムギ」、「夏黄金」

「シラネコムギ」

- ・前日の降雨により畝間に滞水が見られた。
- ・茎立ち期は3/26頃と推定した。
- ・3/20調査で確認された縞萎縮病の病徴は軽快したが、下葉の黄化と枯れ、生育ムラが見られ、生育不良個所は葉色が薄い。

### 「夏黄金」

- ・前日の降雨によりほ場全面が2cmほど湛水。3月以降複数回湛水があり、小～中程度の湿害が確認できる。
- ・茎立ち期は4/3頃と推定される。

### 登米 「あおばの恋」

- ・4/10 現在、生育は良好。雑草発生はほぼ無し。
- ・幼穂形成期は3/18であった。減数分裂期は4/24と推定される。
- ・前日の降雨は排水されていた。

### 石巻 「シュンライ」、「ミノリムギ」、「シラネコムギ」

- ・すべての調査ほど平年より生育が早い、昨年よりはやや遅い傾向が見られる。また、茎数が少ない。
- ・すべての調査ほどスズメノテッポウが確認された。程度はミノリムギで少なく、他2ほ場では問題にならない程度の少発生であった。
- ・「シュンライ」  
草丈は54.5cm、茎数は724.8本/m<sup>2</sup>、幼穂長は35.1mm(4/10 現在)。
- ・「ミノリムギ」  
草丈は35.7cm、茎数は705.5本/m<sup>2</sup>、幼穂長は14.2mm(4/10 現在)。
- ・「シラネコムギ」  
草丈は31.2cm、茎数は779.4本/m<sup>2</sup>、幼穂長は3.2mm(4/10 現在)。